

人文社会科学部 現代語・現代文化専攻（博士前期課程）

現代文化分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE303	文化生成論I1A	2	1.5	1・2	春ABC	火3	人社 B615	濱田 真	近代から現代にかけてのドイツの主要な文化論を取り上げて、文化形成の諸問題について考察する。18世紀の啓蒙主義から19世紀のロマン主義にかけての時代に注目して、Aufklärung, Bildung, Kulturという概念にどのような意味内容が付与されたかを確認することで、文化の捉え方の変化について考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH303と同一。
01DE304	文化生成論I1B	2	1.5	1・2	秋ABC	火3		濱田 真	近代から現代にかけてのドイツの主要な文化論や芸術論を取り上げて、文化・自然・感性の関係について考察する。諸感覚の位置づけの議論が文化観・芸術観・自然観にどのような影響を及ぼしていたかについて考える。	西暦奇数年度開講。 02DH304と同一。
01DE307	文化動態論(1) I1A	1	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 B616	清水 知子	現代社会における格差と文化について考える。トマ・ピケティ『21世紀の資本』及びナオミ・クライン『フランドなんかいらぬ』をはじめとするテキストを中心に議論する。	西暦奇数年度開講。 01DR597, 02DH307と同一。
01DE308	文化動態論(1) I1B	2	1.5	1・2	秋ABC	水3		清水 知子	ソーシャル・ドキュメンタリーにおける映像表現の基礎を理解し、ドキュメンタリーから現代社会の諸問題と語りの問題について考える。	西暦奇数年度開講。 01DR598, 02DH308と同一。
01DE311	文化動態論(2) I1A	2	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 B618	山口 恵里子	芸術とテクノロジーに関する文献を読み、芸術、テクノロジー(技術・技法)、身体との関係を多様な視点から考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH311と同一。
01DE312	文化動態論(2) I1B	2	1.5	1・2	秋ABC	水3		山口 恵里子	芸術とテクノロジーに関する文献を読み、芸術、テクノロジー(技術・技法)、身体との関係を具体的な作品(美術、デザイン、建築等)をふまえて考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH312と同一。
01DE315	文化構造論I1A	2	1.5	1・2	春ABC	金4	人社 B615	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な理論を習得する。今年度はマルクス『資本論』第二巻、第三巻を講読し、資本主義の特性と諸矛盾について考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH315と同一。
01DE316	文化構造論I1B	2	1.5	1・2	春ABC	金5	人社 B615	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な理論を習得する。今年度はマルクス『資本論』第二巻、第三巻を講読し、学生と教員との議論を通じて理解を深める。	西暦奇数年度開講。 02DH316と同一。
01DE319	文化対照論I1A	2	1.5	1・2	春ABC	木4	人社 B615	対馬 美千子	異なる文化を照らし合わせることにより見えてくる文化の側面について、主に文学や思想の文献を講読することにより探究する。とくに現代文化の言語に関わる諸現象について様々な角度から考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH319と同一。 要望があれば英語で授業
01DE320	文化対照論I1B	2	1.5	1・2	秋ABC	木4		対馬 美千子	異なる文化を照らし合わせることにより見えてくる文化の側面について、主に思想・文学の文献を講読することにより探究する。とくに現代文化の言語に関わる諸現象について様々な角度から考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH320と同一。 要望があれば英語で授業
01DE323	文化差異論I1A	1	1.5	1・2	春ABC	金3	人社 B618	竹谷 悦子	国家の枠組みを超えたトランスナショナルなネットワークをフェミニズムの座標軸から読み解く。	西暦奇数年度開講。 02DH323と同一。 要望があれば英語で授業
01DE324	文化差異論I1B	1	1.5	1・2	秋ABC	金3		竹谷 悦子	国家の枠組みを超えたトランスナショナルなネットワークを人種の座標軸から読み解く。	西暦奇数年度開講。 02DH324と同一。 要望があれば英語で授業
01DE327	文化現象論I1A	2	1.5	1・2	春ABC	月4	人社 B618	江藤 光紀	文化現象のさまざまな現れについて研究する。おもに20世紀以降から現代の欧米、日本の芸術および文化現象を扱う。	西暦奇数年度開講。 02DH327と同一。
01DE328	文化現象論I1B	1	1.5	1・2	秋ABC	月4		江藤 光紀	20世紀以降から現代の欧米、日本の芸術および文化現象が、どのように現象するのかについて、文献を読みながら討論する。	西暦奇数年度開講。 02DH328と同一。
01DE331	文化コミュニケーション論I1A	2	1.5	1・2	春ABC	月6	人社 B615	武井 隆道	文化をコミュニケーションの総体とみる立場から、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ文化について考察する。今年度は18世紀後半の身体的美意識を、演劇、文学、造形芸術における表現と受容の様相から探る。特にゲーテと舞踊の関係を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 02DH331と同一。
01DE332	文化コミュニケーション論I1B	2	1.5	1・2	秋ABC	月6		武井 隆道	文化をコミュニケーションの総体とみる立場から、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ文化について考察する。今年度は18世紀後半の身体的美意識を、演劇、文学、造形芸術における表現と受容の様相から探る。特にヴァンデルマン、ヘルダー等を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 02DH332と同一。
01DE339	異文化地域論(1) I1A	1	1.5	1・2	春AB	水2集中	人社 B616	畔上 泰治	ドイツ語圏を中心に、ヨーロッパ地域における20世紀以降の社会・文化を対象に考察し、その現代的意義を探ります。2013年度においては、20世紀前半のドイツの「人種」政策を支えた諸科学を対象に考察する予定です。	集中授業は5月実施予定。日程は後日掲示する。 西暦奇数年度開講。 02DH339と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE340	異文化地域論(1) IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	水2		畔上 泰治	ドイツ語圏を中心に、ヨーロッパ地域における20世紀以降の社会・文化状況に与えた諸科学の影響を考察し、科学と社会政策、人々の生活の関わりを探ります。2013年度においては、20世紀前半のドイツの植民地政策を支えた諸科学を対象に考察する予定です。	西暦奇数年度開講。 02DH340と同一。
01DE343	異文化地域論(2) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	火4	人社 B615	江藤 秀一	本授業では英語圏と見なされる諸地域の文化の問題を取り上げる。本年度は18世紀から19世紀の英文で書かれた文献の輪読を行う。現在から300年近い昔の状況を今日のわれわれがどの程度具体的に理解できるかを考えてみたい。	西暦奇数年度開講。 02DH343と同一。
01DE344	異文化地域論(2) IIB	1	1.5	1・2	秋ABC	火4		江藤 秀一	本授業では英語圏と見なされる諸地域の文化の問題を取り上げる。本年度は18世紀から19世紀の英語の文献を読みながら、主に当時の社会や文化の面に考察を加える。	西暦奇数年度開講。 02DH344と同一。
01DE347	異文化地域論(3) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	金5	人社 B616	宮崎 和夫	スペインまたはスペイン語圏諸地域の文化の様々な側面を、ヨーロッパ諸地域の文化またはヨーロッパ以外の諸地域の文化との、対峙と交流の観点から、共時的かつ通時的に考察する。スペイン語で書かれた文献を講読する。	西暦奇数年度開講。 02DH347と同一。
01DE348	異文化地域論(3) IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	金5		宮崎 和夫	スペインまたはスペイン語圏諸地域の文化の様々な側面を、ヨーロッパ以外の諸地域の文化またはヨーロッパ諸地域の文化との、対峙と交流の観点から、共時的かつ通時的に考察する。スペイン語で書かれた文献を講読する。	西暦奇数年度開講。 02DH348と同一。
01DE351	異文化交流論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	水2	人社 B615	馬籠 清子	モダニズムの時期に注目し、諸芸術の特徴・動きとその背景を分析する。独自の視点、焦点のしぼり方を考える。	西暦奇数年度開講。 02DH351と同一。
01DE352	異文化交流論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	水2		馬籠 清子	モダニズムの時期に注目し、諸芸術の特徴・動きとその背景を分析する。独自の視点、焦点のしぼり方を考える。	西暦奇数年度開講。 02DH352と同一。
01DE355	異文化言語論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	月4	人社 B616	小松 祐子	フランス語圏の言語文化の諸問題を幅広く考察する。フランス語文献を使用する。	西暦奇数年度開講。 02DH355と同一。
01DE356	異文化言語論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	月4		小松 祐子	フランス語圏言語文化への深い理解と多面的なフランス語能力の習得・伸長をめざした授業を行う。	西暦奇数年度開講。 02DH356と同一。
01DE363	科学文化論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	火4	人社 B618	廣瀬 浩司	さまざまな科学と文化思・芸術・社会など相互の関係につき、主に現象学やフランス20世紀思想などを意識しながら探求する。	西暦奇数年度開講。 02DH363と同一。
01DE364	科学文化論 IIB	1	1.5	1・2	秋ABC	火4		廣瀬 浩司	科学は文化と同質なのか、異質なのか。現象学をはじめとする20世紀思想、科学論、心理学などの成果を意識しながら演習方式で追求する。	西暦奇数年度開講。 02DH364と同一。
01DE367	境域文化論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	金4	人社 A717	中田 元子	19世紀イギリスにおける葛藤、交渉の様相を考察することによって、現代の文化的境域に生じる摩擦、葛藤を理解し、対処する方法を探る。学術論文を執筆するにあたって英語文献を使いこなせるようになるための力を養う。	西暦奇数年度開講。 02DH367と同一。
01DE368	境域文化論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	金4		中田 元子	19世紀イギリスにおける葛藤、交渉の様相を考察することによって、現代の文化的境域に生じる摩擦、葛藤を理解し、対処する方法を探る。学術論文を執筆するにあたって英語文献を使いこなせるようになるための力を養う。	西暦奇数年度開講。 02DH368と同一。
01DE371	イメージ生成論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	火5	人社 A715	吉野 修	現代文化をイメージが生成し消滅する現場ととらえ、言語的表現や映像芸術におけるイメージの諸相とその意義を論考する。	西暦奇数年度開講。 02DH371と同一。
01DE372	イメージ生成論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	火5		吉野 修	文学作品や現代芸術の作品などを分析対象にして、イメージが生成し消滅するプロセスが表象システムとどのように関係するかという問題を検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH372と同一。

言語情報分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE403	言語文化社会論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	火5		大塚 秀明	言語文化社会論について概略を講じ、日本語に入った外来語(受け入れの視点)と外来語として取り入れられた日本語(送り出しの視点)という2本柱をたて、過去と将来に関する問題をケーススタディとして取りあげる。	西暦奇数年度開講。 02DH403と同一。
01DE404	言語文化社会論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	火5		大塚 秀明	言語文化社会論について概略を講じ、日本語に入った外来語(受け入れの視点)と外来語として取り入れられた日本語(送り出しの視点)という2本柱をたて、過去と将来に関する問題について演習形式を通して考える。	西暦奇数年度開講。 02DH404と同一。
01DE411	言語情報論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	木3	1B210	宮腰 幸一	動詞の語彙化パターンとその統語的実現パターンについて、様々な英語動詞の振る舞いを観察しながら考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH411と同一。 要望があれば英語で授業
01DE412	言語情報論 IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	木3		宮腰 幸一	春学期に引き続き、英語動詞の語彙化パターンとその統語的実現パターンについて考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH412と同一。 要望があれば英語で授業
01DE415	言語情報処理論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	木2	1B210	宮腰 幸一	本年度は日本語の品詞論を検討する。特に、形容詞・形容名詞/動詞・副詞に焦点を当てる。	西暦奇数年度開講。 02DH415と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE416	言語情報処理論IIB	1	1.5	1・2	秋ABC	木2		宮腰 幸一	春学期の議論をふまえて、日本語の文法範疇を類型論的視座から再検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH416と同一。
01DE419	異文化言語比較演習IIA	2	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 A718	柳田 優子	生成文法理論の理解を深めるために基本的文献を講読する。日本語、英語に焦点をあて、文や動詞句、名詞句構造に関わるテーマを扱う。	西暦奇数年度開講。 02DH419と同一。
01DE420	異文化言語比較演習IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	水3		柳田 優子	共時的、通時的な観点から、日本語、英語を中心とした諸言語の文、動詞句、名詞句構造に焦点をあて、言語間の違いを類型論の立場から検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH420と同一。
01DE423	異文化言語習得論IIA	2	1.5	1・2	春ABC	月2	人社 B618	卯城 祐司	外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのか探る。	西暦奇数年度開講。 02DH423と同一。
01DE424	異文化言語習得論IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	月2		卯城 祐司	外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。その応用としてリーディング能力獲得への英文読解指導法を提言する。さらに、理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザインについて学んでいく。	西暦奇数年度開講。 02DH424と同一。
01DE431	異文化言語教育教材論IIA	2	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 B615	久保田 章	言語教材論の観点から、言語の習得と教授にかかる理論的、実践的研究に関する文献を講読し、問題点について議論する。特に認知的な研究を背景として、教材論の体系化をめざす。	西暦奇数年度開講。 02DH431と同一。
01DE432	異文化言語教育教材論IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	水3		久保田 章	第二言語、特に英語の教材開発に関する諸問題について、タスク、シラバス、テキスト等の観点から具体的に考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH432と同一。
01DE443	異文化言語運用論(3)IIA	2	1.5	1・2	春ABC	金4	人社 A706	山田 博志	現代フランス語の代名動詞受動用法について、その基本的なデータと主要な先行研究を紹介し、代名動詞受動用法の特徴について詳細に検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH443と同一。
01DE444	異文化言語運用論(3)IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	金4		山田 博志	現代フランス語の代名動詞受動用法を類型論的に正しく位置づけることを目指し、フランス語の他の構文およびフランス語以外のロマンス諸語、英語、日本語の関連する構文も視野に含め検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH444と同一。
01DE447	異文化言語運用論(4)IIA	2	1.5	1・2	春ABC	月4	人社 B615	伊原 大策	近世漢語に関して、自ら問題点を見いだし解決する方法を学ぶ。	受講に当たっては中国古典学の基礎知識と歴史語法研究の専門知識が予め必要である。 西暦奇数年度開講。 01DQ375、02DH447と同一。
01DE448	異文化言語運用論(4)IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	月4		伊原 大策	近世漢語に関する文献を読み、その研究成果を学び、自分で文章をまとめる力を養う。	受講に当たっては中国古典学の基礎知識と歴史語法研究の専門知識が予め必要である。 西暦奇数年度開講。 01DQ376、02DH448と同一。
01DE455	異文化言語演習(1)IIA	2	1.5	1・2	春AB 春C	木4	CA310	磐崎 弘貞	本授業の目的は、(a)APAスタイルによって、論文執筆をするための表現練習を行い、(b)論文での表現力を高めるためのコーパスその他の検索ツールを学ぶことである。	西暦奇数年度開講。 02DH455と同一。
01DE456	異文化言語演習(1)IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	木4		磐崎 弘貞	本授業の目的は、(a)英語論文/資料の要約方法を学び、(b)研究メモ/資料から実際の論文を執筆する手法を学ぶことである。毎回の課題提出と添削から、実際の論文執筆に即して、こうした点を具体的に学んでいく。	西暦奇数年度開講。 02DH456と同一。
01DE459	異文化言語演習(3)IIA	2	1.5	1・2	春ABC	火5	人社 A707	住大 恭康	ドイツ語の冠詞や接続詞が文内で果たす意味論的機能について考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH459と同一。
01DE460	異文化言語演習(3)IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	火5		住大 恭康	ドイツ語の冠詞や接続詞がもつ、談話、およびテクスト構成における機能について検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH460と同一。
01DE463	異文化言語演習(4)IIA	2	1.5	1・2	春ABC	水2	人社 B618	佐々木 勲人	中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。 02DH463と同一。
01DE464	異文化言語演習(4)IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	火5		佐々木 勲人	中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。 02DH464と同一。
01DE471	情報メディア論IIA	2	1.5	1・2	春ABC	月6		海後 宗男	情報メディア論IIAでは、メディア・コミュニケーションに関連する研究方法の応用を学習する。	西暦奇数年度開講。 02DH471と同一。
01DE472	情報メディア論IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	月6		海後 宗男	情報メディア論IIBでは、ネットワーク社会論に関連する研究方法の応用を学習する。	西暦奇数年度開講。 02DH472と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE479	異文化言語演習(2) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	木2	人社B615	小野 雄一	コンピュータ、情報通信技術(ICT)を活用したダイナミックな外国語教育の理論と実践に関する文献を講読し、近年のComputer-Assisted Language Learning (CALL)、Technology Enhanced Language Learning (TELL)、およびe-Learningの背景となる理論を教育工学的視点から理解する。	西暦奇数年度開講。 02DH485と同一。
01DE480	異文化言語演習(2) IIB	2	1.5	1・2	秋ABC	木2		小野 雄一	最近のComputer-Assisted Language Learning (CALL)における実践研究に着目し、学生自身のPCを活用しながら多くのハンズオンを実施し、高等教育機関の授業におけるICTスキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。 02DH486と同一。
01DE481	言語コミュニケーション論A	1	1.0	1・2	春AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとに討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DQ081、01DR736と同一。
01DE482	言語コミュニケーション論B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとに討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DQ083、01DR737と同一。
01DE483	相互行為論A	1	1.0	1・2	春AB	火5		高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DR734と同一。
01DE484	相互行為論B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DR735と同一。